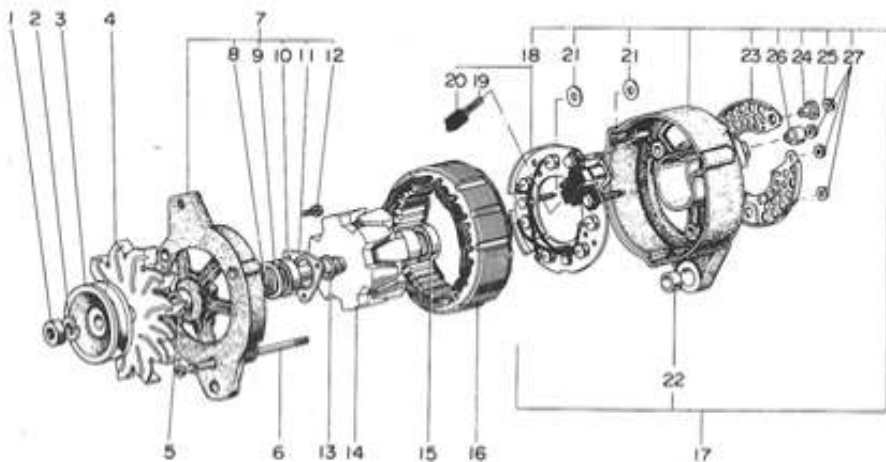


(3) 構成部品図



第8-2図

部品名称

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 ナット | 15 ボールベアリング |
| 2 スプリングワッシャ | 16 ステータアセンブリ |
| 3 プーリ | 17 フレームアセンブリ：リヤ-エンド |
| 4 ファン | 18 レクティファイヤ・サブアセンブリ |
| 5 スペースリング | 19 ブラシスプリング |
| 6 スルーボルト | 20 ブラシ |
| 7 フレームアセンブリ：ドライブエンド | 21 ワッシャ |
| 8 フェルトワッシャ | 22 " |
| 9 フェルトカバー | 23 ブラッシュ |
| 10 ボールベアリング | 24 リヤ-エンド・カバー |
| 11 リチーナプレート | 25 ターミナル：インシュレーション |
| 12 スクリュ | 26 " |
| 13 スペースリング | 27 ナット |
| 14 ロータアセンブリ | |

(4) 分解、点検、修正、組立て

1) 分解前の点検

① ロータコイルの抵抗測定

F端子とE端子間の抵抗値が標準値にあることを確認する。

標準値 Ω	3.9~4.1
-------	---------

抵抗値が著しく小さいか、0の場合はロータコイルの層間短絡またはアースが考えられ、著しく大きい場合はブラシの接触不良、リード線、ロータコイルの断線が考えられるか、リード線、ロータコイルの断線が考えられる。

② ダイオードの点検

④ サーキットテスタの⊕リード線をN端子に、⊖リード線を接続したとき導通があれば⊖側ダイオード3個のうち1個以上が短絡している。

⑤ ⊕リード線をE端子に、⊖リード線をN端子に接続したとき導通があれば⊖側ダイオード3個のうち1個以上が短絡している。



第8-3図

SP1774



第8-4図

SP1775



第8-5図

SP1776

(5) 性能試験

性能試験は右図のように結線し、無負荷回転数及び出力回転数を点検する。

1) 無負荷回転数

スイッチ (S₁) を閉じ、スイッチ (S₂) を開き可変速モータでジェネレータを駆動し、徐々に回転を上げ出力電圧が14Vに達したときの回転数を測定する。

回転数 (14V時) rpm	820~1020
----------------	----------

2) 出力回転数

スイッチ (S₁) (S₂) 共閉じて、出力電圧が常に14Vになるように可変抵抗で調整し、出力電流が規定値に達したときのジェネレータ回転数を測定する。

ジェネレータ仕様	回転数 rpm
50A (14V時)	3500 以下

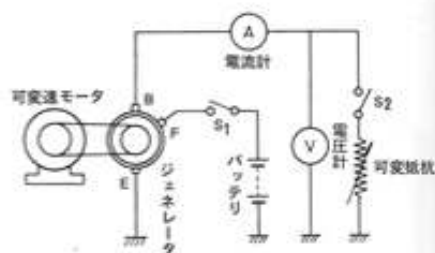
(6) 取扱上の注意

- ① バッテリの極性に注意し、絶対に逆接続しないこと。
逆接続するとダイオードでバッテリーを短絡させ、ダイオード内部を溶着破壊する。
- ② B端子をアースさせないこと。
B端子は常時バッテリー電圧がかかっているため、バッテリーを短絡させ配線を焼損する。
- ③ クイックチャージの場合はバッテリーのⓐ端子側を外すこと。
異常パルス電圧が発生した場合、ダイオードを破壊する恐れがある。
- ④ 水をかけないこと。
水が導体となり発電不良を起こす。

(7) レギュレータの点検、修正、調整

1) 外観

- ① カバーを外して、内、外部の変形、き裂、さび、シールパッキンを点検し、著しい場合はレギュレータアセンブリを交換する。特にシールパッキンの切損、カバー及びケースのシール面に傷があると内部に水が浸入し故障の原因となるので注意する。
- ② ポイントを点検し、荒れている場合は目の細かいサンドペーパー (＃500~600程度) で両ポイントを修正するか、レギュレータアセンブリで交換する。
- ③ ボルテージレギュレータ電圧コイル及びボルテージリレー電圧コイルの抵抗をテストで測定し、断線あるいは短絡がある場合はレギュレータアセンブリを交換する。



第8-19図

ボルテージレギュレータ電圧コイルの抵抗 Ω	102
ボルテージリレー電圧コイルの抵抗 Ω	24

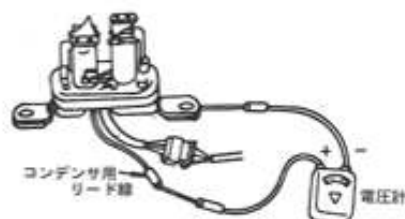
④ 抵抗器の抵抗を測定し、不良の場合は交換する。

抵抗器の抵抗 Ω	10.5
----------	------

2) 性能の点検

車両に装着した状態でエンジンを回転して行なう。

- ① 車両の負荷類を全部OFFにしてコンデンサ用リード線とアース間に電圧計を接続する。
- ② ボルテージリレーはエンジン停止時に下側に閉じており、アイドリング状態で上側に閉じていれば正常である。



第8-20図

作動不良の場合は、

ボルテージリレーの調整不良

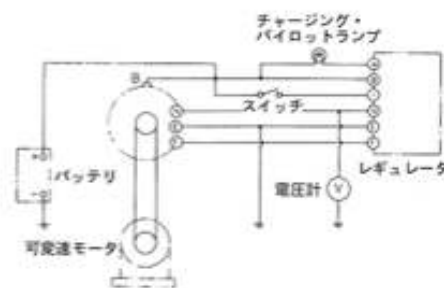
電圧コイルの断線

と考えられるのでコイルの抵抗を調べ、不良の場合はレギュレータアセンブリを交換し、正常である場合はボルテージリレーを調整する。

- ③ エンジン回転を上げてゆくと電圧も上昇し、1400~1850 rpm になると変化しなくなる。このときの電圧が13.5~14.5Vの範囲にあれば正常である。範囲外のときはボルテージレギュレータを調整する。

3) ボルテージリレーの調整

調整する場合は図のように結線してレギュレータ側N端子とアース間に電圧計をセットし、ジェネレータの回転をゆっくり上げてゆき、ボルテージリレーが吸引してチャージング・パイロットランプが消灯するときの電圧を測定し、その電圧が規定値になるようにアマチュアギャップ、ポイントギャップ順に調整する。

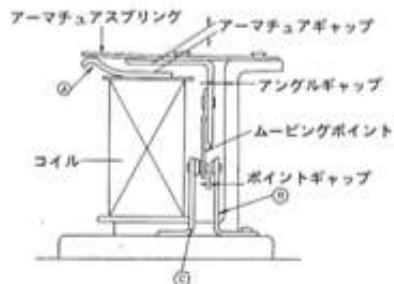


第8-21図

ボルテージリレー吸引電圧 V	4~5.8
----------------	-------

(調整要領)

- ① 電圧が高過ぎる場合はコアーアーム④を下側に曲げ、低過ぎる場合は上側に曲げてアーマチュアスプリングの抗力を変えることによって吸引電圧が変化する。
- ② この状態でアーマチュアをムービングポイントが⑤側ポイントに接するまで押下げたときのアーマチュアギャップを測定し、規定値以下の場合はポイントアーム⑥を曲げて調整する。



第 8 - 22 図

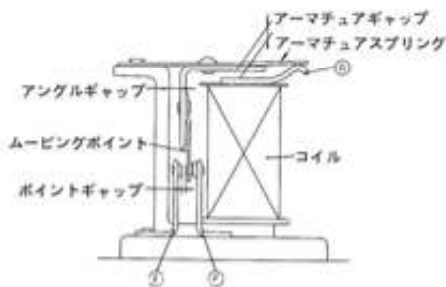
- ③ アーマチュアを開放し、⑥側ポイントとムービングポイントのギャップをポイントアーム⑦を曲げて規定値になるように調整する。
- ④ ギャップの調整が終わったら、ジェネレータを回転させて吸引電力を確認し、規定値範囲になるまで以上の作業を繰り返し行なう。

調整値	アーマチュアギャップ	0.3 以上
	ポイントギャップ	0.4 ~ 1.2
	アングルギャップ (参考)	0.5 以上

4) ボルテージレギュレータの調整

性能試験で無負荷調整が 13.5 ~ 14.5 V の範囲に入らない場合は、性能試験と同じ要領で確認しながら次の要領でボルテージレギュレータを調整する。

- ① 調整電圧が高過ぎる場合は、コアーアーム⑧を下側に曲げ、低過ぎる場合は上側に曲げてアーマチュアスプリングの抗力を変えることによって調整電圧が変化する。
- ② この状態でアーマチュアをストッププレートが⑨側ポイントに当たるまで指で押したときのアーマチュアギャップを測定し、規定値以下の場合はポイントアーム⑩を曲げて調整する。



第 8 - 23 図

調整値	アーマチュアギャップ	0.3 以上
	ポイントギャップ	0.3 ~ 0.45
	アングルギャップ (参考)	0.1 ~ 1.0 以上

(8) トラブルシューティング

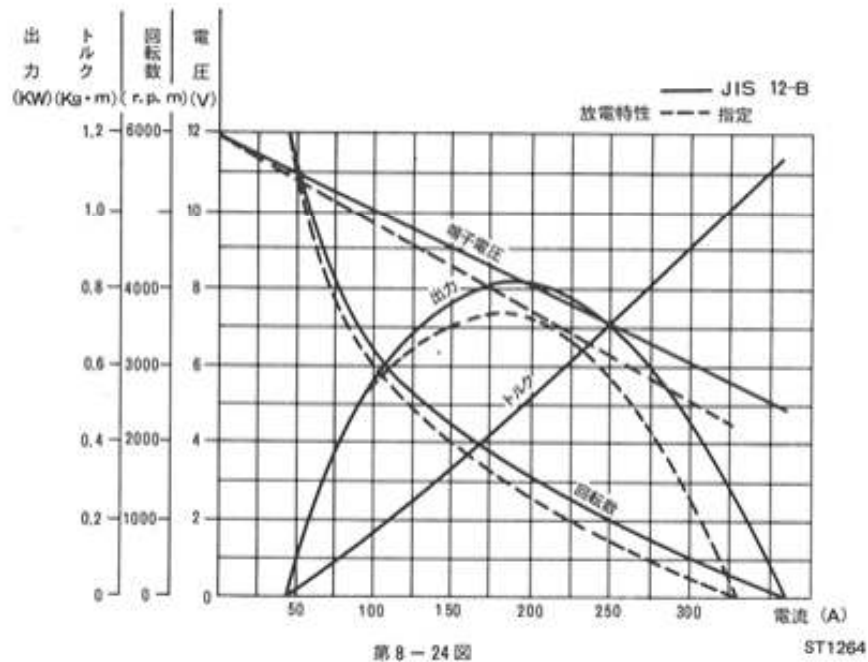
状 況	原 因	処 置 方 法
全く充電しない	① 各端子間のコード断線またはコネクタ不良	修正
	② 充電装置のアース不良	修正
	③ ブラシとスリップリングが当たらない	修正
	④ ステータコイルの断線または焼損 ダイオードカバー部よりステータコイル・リード線接続部で各端子間 3 箇所の抵抗値を測定	ステータアセンブリ交換
	⑤ ロータコイルの断線または焼損 ジェネレータ側のコネクタを外し、F-E 間の抵抗値を測定	ロータアセンブリ交換
	⑥ ダイオード焼損 B-N, B-E, N-E 間の導通を点検して片導通なら良好	ダイオードアセンブリ交換
	⑦ ボルテージリレーの電圧コイル断線	レギュレータアセンブリ交換
	⑧ ボルテージリレーの吸引側ポイント接触不良	修正またはレギュレータアセンブリ交換
充電量不足	① 各端子間の接続不安定	修正
	② ドライブベルトのスリップ	修正またはベルト交換
	③ スリップリングとブラシの接触不良またはしょう動不良	修正またはブラシホルダ・アセンブリ交換
	④ ロータコイルのレアショート (層間短絡)	ロータアセンブリ交換
	⑤ ステータコイルの一部断線またはショート	ステータアセンブリ交換
	⑥ ダイオード不良	ダイオードアセンブリ交換
	⑦ ボルテージレギュレータの非吸引側ポイント接触不良	修正またはレギュレータアセンブリ交換
過充電	① B 端子回路と F 端子回路との短絡	修正
	② レギュレータ調整電圧の高過ぎ	レギュレータ調整または交換
	③ ボルテージレギュレータ電圧コイル断線	レギュレータアセンブリ交換
	④ ボルテージレギュレータ非吸引側ポイント溶着	レギュレータアセンブリ交換
パイロットランプ点灯	⑤ ボルテージレギュレータ吸引側ポイント接触不良	修正またはレギュレータアセンブリ交換
	⑥ レギュレータの抵抗断線	レギュレータアセンブリ交換
パイロットランプ点灯	チャージング・パイロットランプ回路短絡	修正
ヒューズ熔断	① ⑥側及び⑨側ダイオードバンク	ダイオードアセンブリ交換
	② コンデンサバンク	コンデンサ交換
	③ 配線短絡	修正
ジェネレータ異音	① ジェネレータ取付け不良	修正
	② ドライブベルト不良	ベルト交換
	③ ベアリング不良	ベアリング交換
	④ ダイオード不良	ダイオードアセンブリ交換
	⑤ ステータコイル短絡	ステータアセンブリ交換

8-2 始動装置

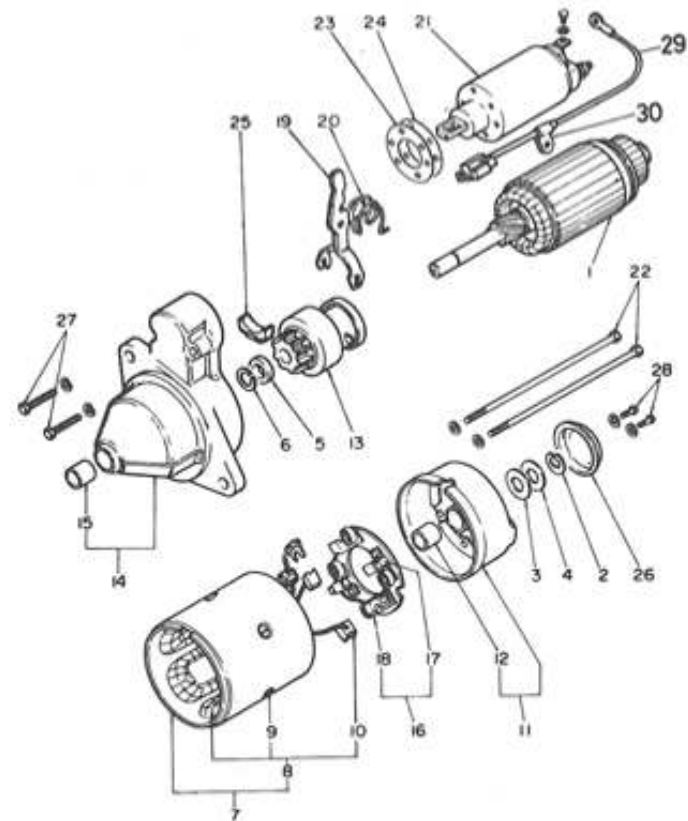
(1) スタータ仕様

項目		仕様
型式		S 114-271 (日立)
電圧 (V)		12
出力 (kW)		1.0
定格時間 (秒)		30
かみ合い方式		マグネットシフト
性能	無負荷	電圧 (V) 12 電流 (A) 70 (最大) 回転数 (rpm) 6000
	負荷	電圧 (V) 7.4 電流 (A) 200 トルク (kg·m) 0.5 (最小) 回転数 (rpm) 1100
	拘束	電圧 (V) 5 電流 (A) 400 (最大) トルク (kg·m) 1.0

(2) 出力特性線図



(3) 構成部品図

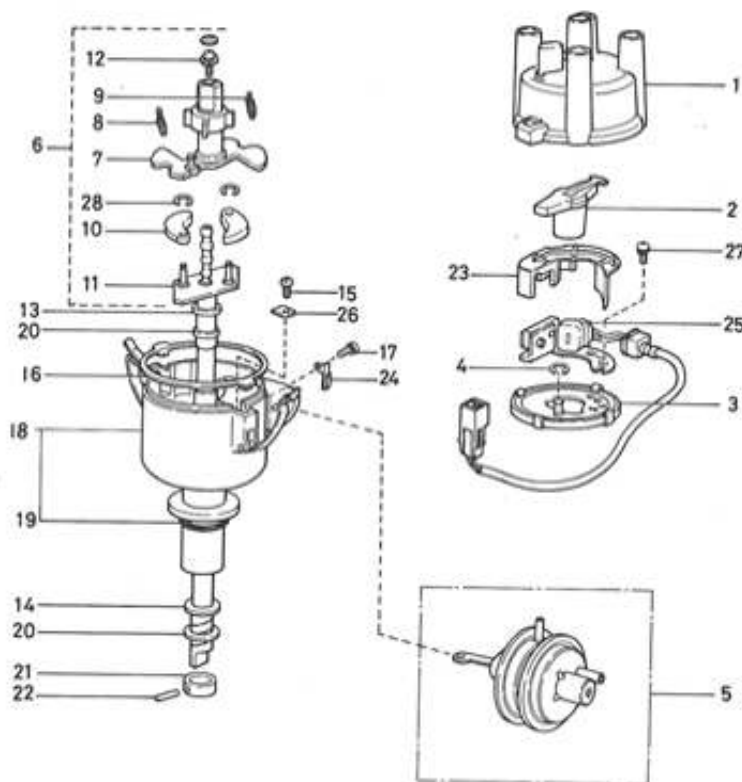


第 8-25 図

部品名称

- | | | |
|------------------|-----------------|---------------------|
| 1 アーマチュアアセンブリ | 11 リヤカバー・アセンブリ | 21 マグネチックスイッチ・アセンブリ |
| 2 リング"E" | 12 プッシュ | 22 スルーボルト |
| 3 スラストワッシャ"A" | 13 ピニオンアセンブリ | 23 ダストカバー"A" |
| 4 "B" | 14 ギヤケース・アセンブリ | 24 "B" |
| 5 ピニオンストッパ | 15 プッシュ | 25 "C" |
| 6 クリップ | 16 ブラシホルダ・アセンブリ | 26 "D" |
| 7 フレームアセンブリ | 17 ブラシ(-) | 27 ボルト |
| 8 フィールドコイル・アセンブリ | 18 ブラシスプリング | 28 スクリュー |
| 9 スクリュー | 19 シフトレバー | 29 ワイヤ |
| 10 ブラシ(+) | 20 トーションスプリング | 30 クリップ |

(2) 構成部品図



第 8-45 図

部 品 名 称

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 キャップアセンブリ | 15 スクリュ |
| 2 ロータアセンブリ | 16 プラグ:ダストブルーフ |
| 3 ブレーカアセンブリ | 17 スクリュ |
| 4 スナップワッシャ | 18 ハウジングアセンブリ |
| 5 バキュームコントローラ | 19 Oリング |
| 6 ガバナアセンブリ | 20 ワッシャ |
| 7 カムアセンブリ | 21 カラー:ドライブギヤ |
| 8 ガバナスプリング"A" | 22 ストレートピン |
| 9 " | 23 ダストカバー |
| 10 フライウエイト | 24 クランプ |
| 11 シャフトアセンブリ | 25 シグナルジェネレータ |
| 12 スクリュ | 26 ワッシャ |
| 13 ワッシャ:アッパ | 27 セムスクリュ |
| 14 " :ロワー | 28 スナップワッシャ |

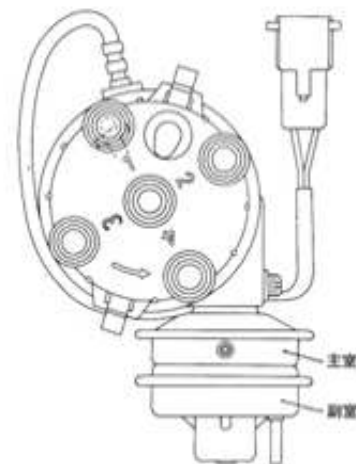
(3) 点検, 調整

1) 点火時期の点検

- ① エンジンを完全に暖機する。
- ② エンジン回転計, 及びタイミングライトをセットする。
- ③ アイドリング回転数を正規に調整する。
- ④ ディストリビュータのバキュームアドバンスに接続されているバキュームホース(主, 副室とも)を外し盲栓をする。
- ⑤ 規定値に点火時期が合っているかタイミングライトを使用して点検する。

調整する場合は, ディストリビュータ全体を回して行なう。

BTDC°/rpm	G161Z	G180Z	
バキュームホースを外した状態	M/T	M/T	A/T
	10/700	8/700	8/900

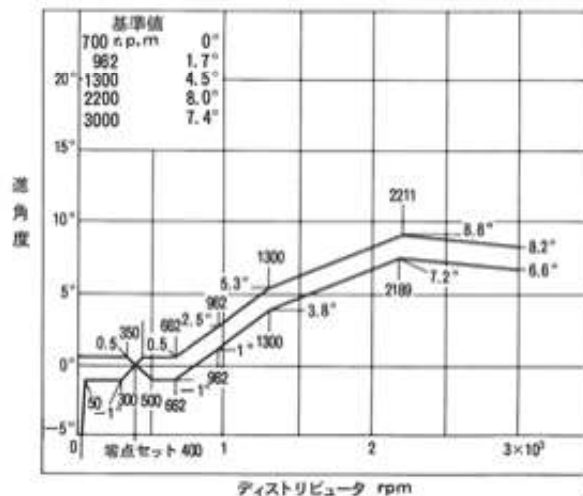


第 8-46 図

2) ガバナ進角の点検

- ① 点火時期の点検と同様の作業を行なう。
- ② エンジン回転を上げていき, エンジン回転計で回転を読みながら, タイミングライトで進角度をガバナ特性表より測定する。

ガバナ特性表

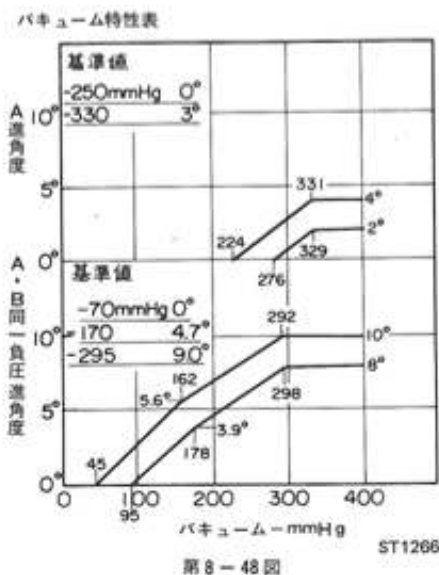


ディストリビュータ rpm

第 8-47 図

3) バキューム進角の点検

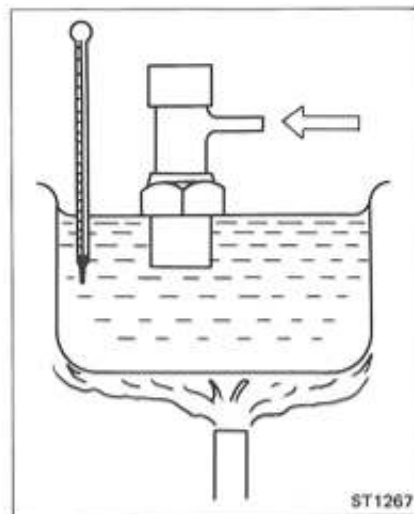
- ① 点火時期の点検と同様の作業を行なう。
- ② エンジンをアイドリングにする。
- ③ ディストリビュータの主室側バキュームアドバンサにバキュームポンプを接続し、タイミングライトで主室側の進角度（A進角度）を点検する。
- ④ 同様に、主、副室両方のバキュームアドバンサに3ウェイジョイントでバキュームポンプを接続し、タイミングライトで主副室両方の進角度（A・B同一負担進角度）を点検する。



第 8 - 48 図

4) TVV (サーマルバキューム・バルブ) の点検

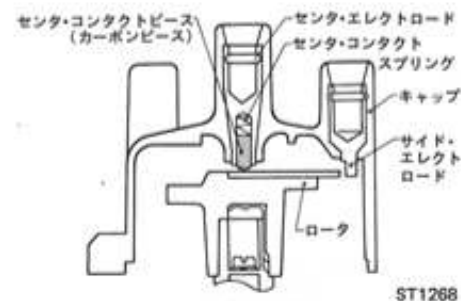
- ① 水温を55℃以上に上げ2分間放置後、ポート（矢印）に息を吹込み密閉されていることを確認する。
- ② 次に水温を35℃に下げ2分間放置する。ポート（矢印）に息を吹込み通気のあることを確認する。
- ③ さらに水温を15℃以下に下げ2分間放置後、ポート（矢印）に息を吹込み密閉されていることを確認する。



第 8 - 49 図

5) ディストリビュータの点検

- ① ディストリビュータキャップを固定しているクランプを外し、キャップを取外し、次の項目を点検する。
 - Ⓐ エレクトロードの腐食及び焼損
 - Ⓑ センタカーボンの摩耗及びき裂
 - Ⓒ ロータの摩耗及び焼損

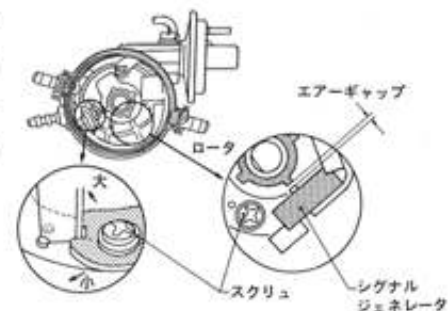


第 8 - 50 図

② エアークギャップの点検

シグナルジェネレータを使用して、シグナルジェネレータのマグネットとタイミングローク突起部間のすき間を測定する。エアークギャップを調整する時は、図のスクリュ2本を緩めブラケットを移動させて行なう。

エアークギャップ	0.2 ~ 0.4 mm
----------	--------------

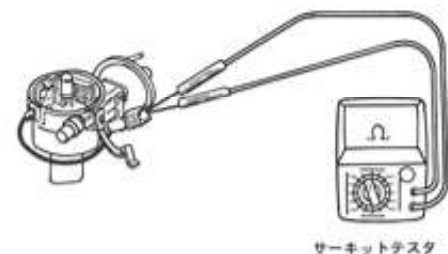


第 8 - 51 図

③ ピックアップ・コイルの点検

シグナルジェネレータのピックアップ・コイルの抵抗値をサーキットテスタを用いて点検する。

コイル抵抗値 Ω	140 ~ 180
----------	-----------



第 8 - 52 図

④ ガバナの点検

ディストリビュータロータを回して手を放したとき軽く戻ること。

注 ロータの移動範囲は約10°しか動かないので注意する。

⑤ バキュームコントローラの点検

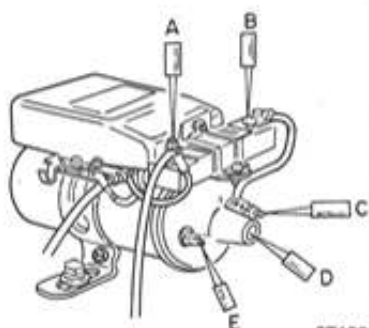
バキュームコントローラに負圧を加えたとき、ブレーカプレートがスムーズに動くことを確認する。

6) イグニッションコイル

サーキットテスタを開いて一次コイル、二次コイルの抵抗値を測定する。

一次コイル (C-E間) Ω	1.26 ~ 1.7
二次コイル (C-D間) K Ω	11.5 ~ 15.5

A-B間抵抗値 Ω	1.1 ~ 1.3
------------------	-----------



ST1271

第 8-53 図

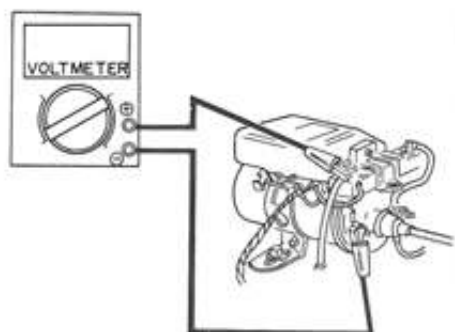
7) イグナイタ

① イグナイタとディストリビュータを接続しているコネクタを外す。

② 電圧計をイグニッションコイル外付け抵抗器の⊕側端子とイグニッションコイル⊖側端子間に接続する。

③ イグニッションスイッチを“ON”にしたときの電圧を測定する。

電圧計の指示 V	約 12
----------	------



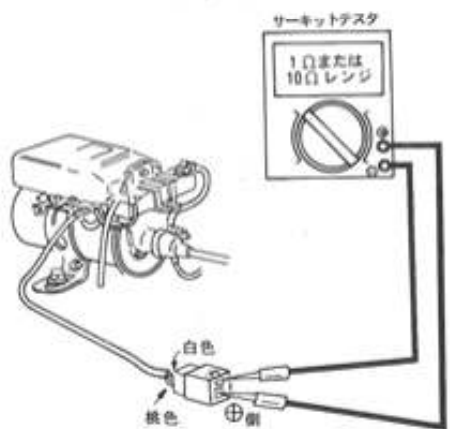
ST1272

第 8-54 図

④ ディストリビュータへのハイテンションケーブルをディストリビュータ側で抜きエンジンのシリンダブロック間に5~6mmすき間をあけて置く。

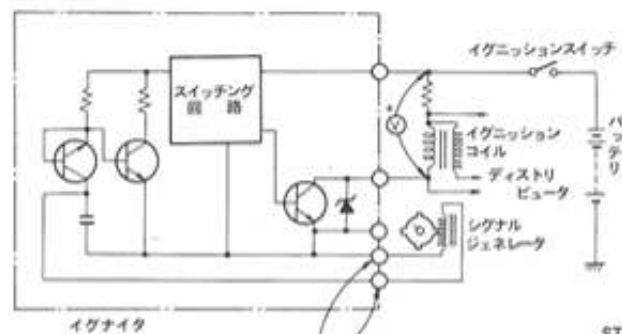
⑤ ディストリビュータに接続しているコネクタを外し、サーキットテスタを $\times\Omega$ または、 $\times 10\Omega$ レンジにセットし、テスト棒を図の様に接続する。

注 テスタ棒を接続する際、テスト棒の極性を間違えないこと。



ST1273

第 8-55 図



第 8-56 図

⑥ イグニッションスイッチを“ON”にする。

⑦ この状態でサーキットテスタのテスト棒の一方をコネクタから離れたとき、シリンダブロック間に火花が飛ぶかどうか確認する。

火花が飛べば正常

(4) 分解・点検

1) ディストリビュータ

エンジンからディストリビュータを取外し、分解、点検を行なう。

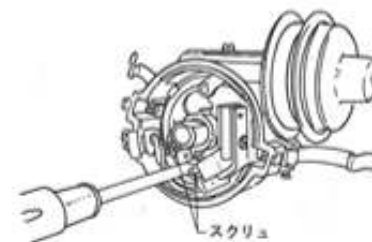
ディストリビュータを取外すとき、ディストリビュータとエンジンブロックに合わせマークを付けておくと、次に組付けるとき容易である。

① キャップ及びロータの取外し

キャップを固定している2個のキャップクランプを取外し、キャップ、ロータ及びダストブルー・パッキンを取外す。

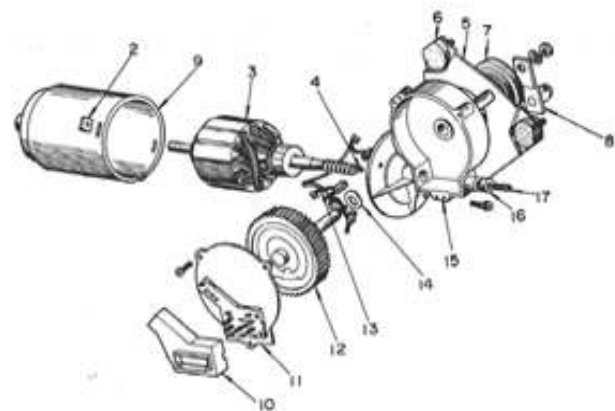
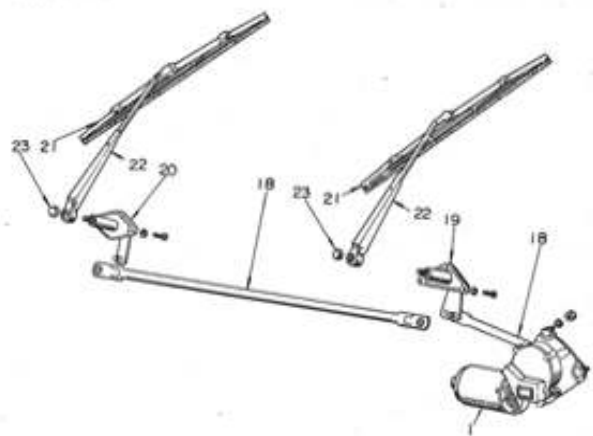
点検

- ④ キャップ
 - ⑧ 通気孔の詰まり
 - ⑨ エレクトロードのき裂・損壊・さび等
 - ⑩ センタカーボンのスプリング作用及びカーボンの摩耗
- ② シグナルジェネレータの取外し、右図のスクリュ (2本) を外す。



第 8-57 図

13-7-3 ワイパ関係構成部品図



第13-62図

部 品 名 称

1 ワイパモータアセンブリ	9 ロータアセンブリ	17 アジャストスクリュー
2 ステアーナット	10 ターミナルカバー	18 リンクアセンブリ
3 アーマチュア	11 プレートアセンブリ	19 ピボットアセンブリ
4 スチールボール	12 ウォームギヤ	20 ピボットアセンブリ
5 ブラケットアセンブリ	13 ブラシアセンブリ	21 ブレードアセンブリ
6 ブラシ	14 ワッシャ	22 アームアセンブリ
7 ガスケット	15 ハウジングアセンブリ	23 ロックナット
8 サブアームアセンブリ	16 ナット	

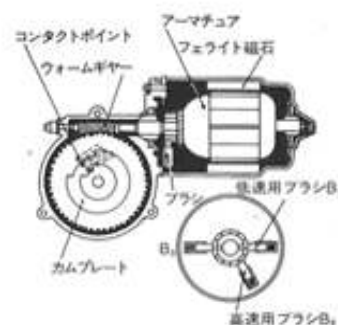
13-7-4 ワイパモータ及びリンクアセンブリ

ワイパモータは永久磁石を使用したフェライトモータで、構造は右図のようになっている。

このモータは2速式で、正規のブラシ B₁ の位置から60度ずれた位置に高速用のブラシ B₂ を設け、アーマチュアの各スロットル導線内に発生する逆起電力の差を利用して回転速度を変えている。

また、ウォームホイールにカムプレートを設け、ワイパスイッチOFF時、回路を接続させてワイパブレードを定位位置まで薄くオートストップ機構を内蔵している。

なお、LT、LS車にはリレーによって作動する開けつ装置を設けている。



第13-63図

(1) 取外し

- 1) ワイパアームのロックナットを外してアームを取外す。
- 2) ステアリングホイールを外し、モータアセンブリを取外す。
- 3) ヒンジのスクリュー3本を外してコンパートメントドアを取外す。
- 4) 上側の取付スクリュー4本を外してコンパートメントボックスを取外す。
- 5) ワイパモータ側のサブアームとリンクのジョイント部を、ナイロンブラシを傷つけないように注意しながらドライバ等を用いて軽くこじって切離す。

注 サブアームとウォームシャフトはテーパセレーションによって組付けられているので、この部分は取外さないようにする。



第13-64図



第13-65図

6) モータアッセンブリを取付けているナット3個を外す。

7) モータへの配線コネクタを外し、モータをエンジンルーム側より取外す。



第 13 - 66 図

8) 左側ピボットアッセンブリをダッシュボードに取付けている3本のボルトと、右側ピボットアッセンブリの2本のボルトを外す。

9) ワイパリンクアッセンブリをコンパートメントボックス孔より引出す。



第 13 - 67 図

10) モータのみの脱着の場合は3)~7)の作業により行なう。

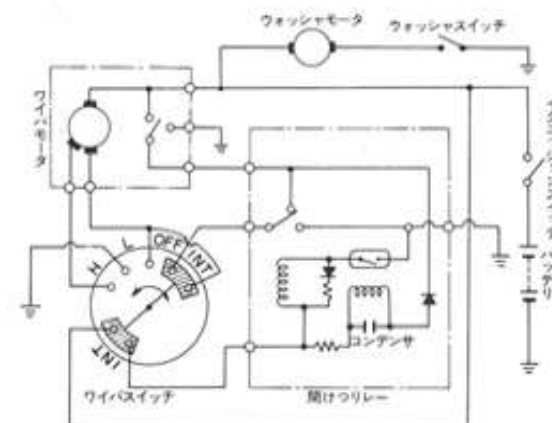
(2) 取付け

取付けは、下記の事項に注意して取外しの逆の順序で行なう。

- 1) ピボットの取付部及びワイバモータ・ブラケットの取付孔部にはシール材(シーラント770G A)を塗布して組付ける。
- 2) サブアームにリンクを組付ける際は、サブアームに対してリンクが平行になるようにして軽くたたいて組付ける。このときナイロンブッシュを傷つけないように注意する。
- 3) 取付け後、リンクアーム等を点検し、他部と干渉したりあるいはねじれ等がないことを確認する。
- 4) ワイバアームは、一度ワイバを作動させて自動停止した位置を基準にして組付ける。

13-7-5 ワイバスイッチ

(1) ワイバ及びウォッシャ回路図



第 13 - 68 図

(2) 取外し

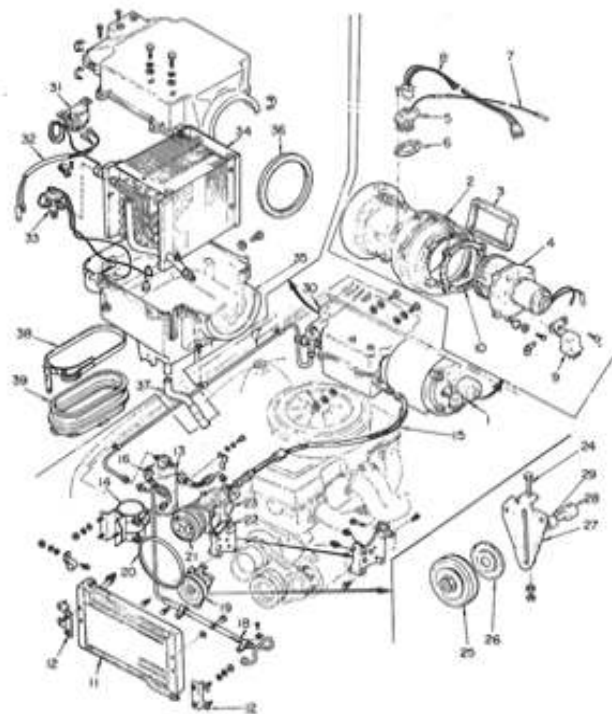
- 1) ステアリングカウルを取外す。
- 2) スイッチの配線をコネクタ部から外す。
- 3) スイッチの取付スクリューを外してスイッチアッセンブリを外す。



第 13 - 69 図

(3) 取付け

取付けは、取外しの逆の順序で行なう。



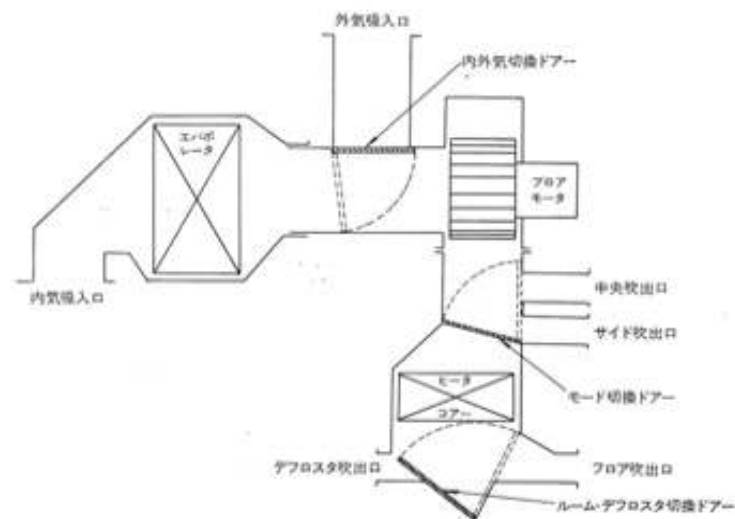
第13-80図

部 品 名 称

- | | | | |
|----|-------------------|----|--------------|
| 1 | ブロアユニット・アッセンブリ | 20 | コンプレッサベルト |
| 2 | ケースアッセンブリ | 21 | マグネットクラッチ |
| 3 | シール | 22 | ブラケット |
| 4 | モータアッセンブリ | 23 | コンプレッサアッセンブリ |
| 5 | レジスタアッセンブリ | 24 | アジャストボルト |
| 6 | シール | 25 | アイドルブリー |
| 7 | ハーネス | 26 | カバー |
| 8 | ハーネス | 27 | ブラケット |
| 9 | リレー | 28 | シャフト |
| 10 | シール | 29 | ディスタンスピース |
| 11 | コンデンサアッセンブリ | 30 | エバポレータアッセンブリ |
| 12 | ブラケット | 31 | サーモスイッチ |
| 13 | リキッドレシーバ・ユニット | 32 | ハーネス |
| 14 | ブラケット | 33 | エクスパンションバルブ |
| 15 | ホース;エバポ〜コンデンサ | 34 | エバポレータ |
| 16 | ホース;コンプレッサ〜コンデンサ | 35 | ケース |
| 17 | パイプ;レシーバタンク〜エバポ | 36 | シール |
| 18 | パイプ;コンデンサ〜レシーバタンク | 37 | ドレインホース |
| 19 | アイドルブリー・アッセンブリ | | |

13-11-3 構造

エアコンディショナ・システムは、ヒータ、クーラ、ブロアモータ、ベンチレーション装置及びこれをコントロールするコントロールレバー類で構成されている。

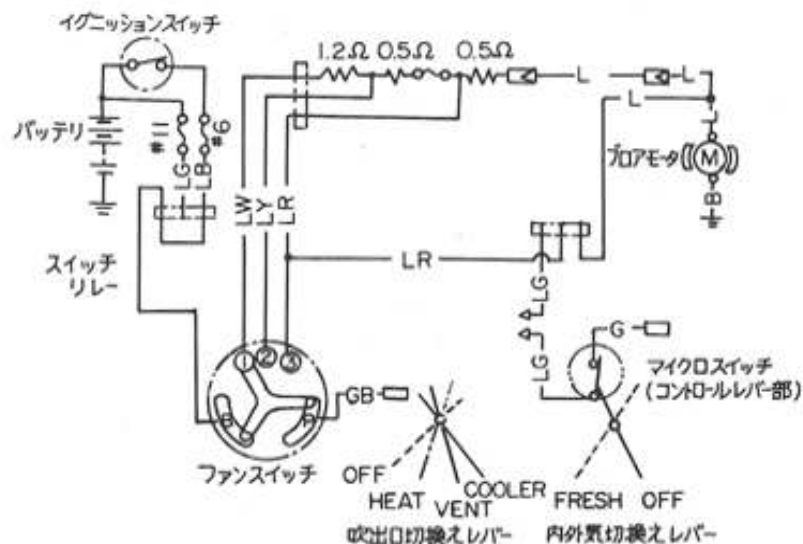


第13-81図

13-11-4 回路

(1) 標準車の回路

標準車の回路は下図ようになっており、ファンスイッチを操作すれば、各レバーの位置に関係なく、各ポジションに応じて、レジスタを通った電流がブローモータに流れ、モータを回転する。



第 13 - 92 図

(2) クーラ装着車の回路

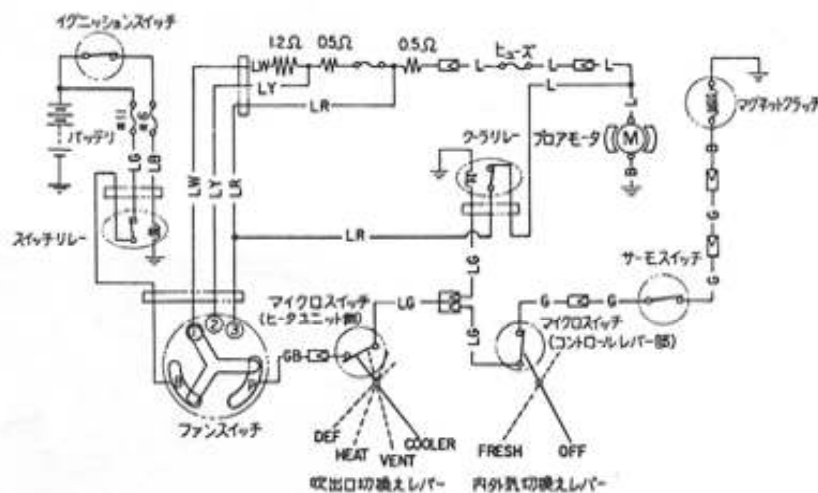
クーラとヒータを同時に使用できるように回路とし、頭寒足熱と共に足元へ冷気配分もできるバイレベル方式を採用している。

下図の回路は、クーラONの状態を示している。

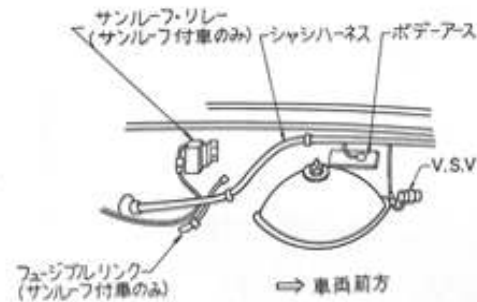
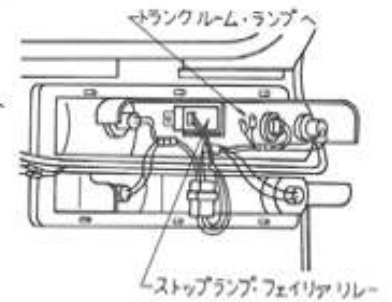
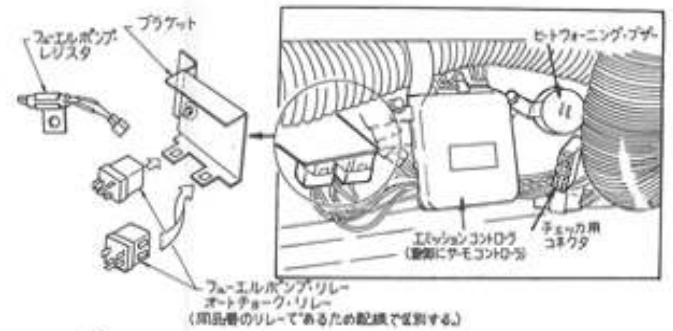
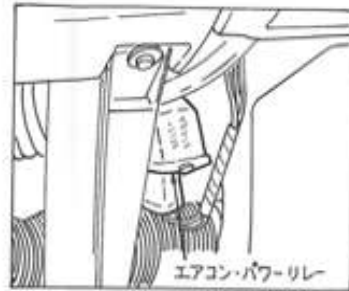
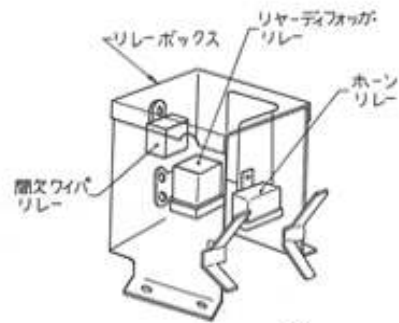
モードコントロール・レバーをVENTまたはCOOLER位置、内外気切換えレバーをOFF位置にするとそれぞれのマイクロスイッチがONし、クーラがONできる態勢になると共にクーラリレーもONする。

この状態でファンスイッチをONするとクーラが作動するわけであるが、クーラリレーがONしているため、ブローモータ回路に直列に接続された抵抗のうち、最後の抵抗は経由しない回路が成立し、ファンスイッチ1（低速）では2個の抵抗を、2（中速）では1個の抵抗、3（高速）では抵抗を経由しないバイパス電流が流れて風量を増量する。

なお、ヒータ時はモードコントロール部のマイクロスイッチがOFFになるため、それぞれの抵抗を経由してブローモータに付加される。



第 13 - 93 図

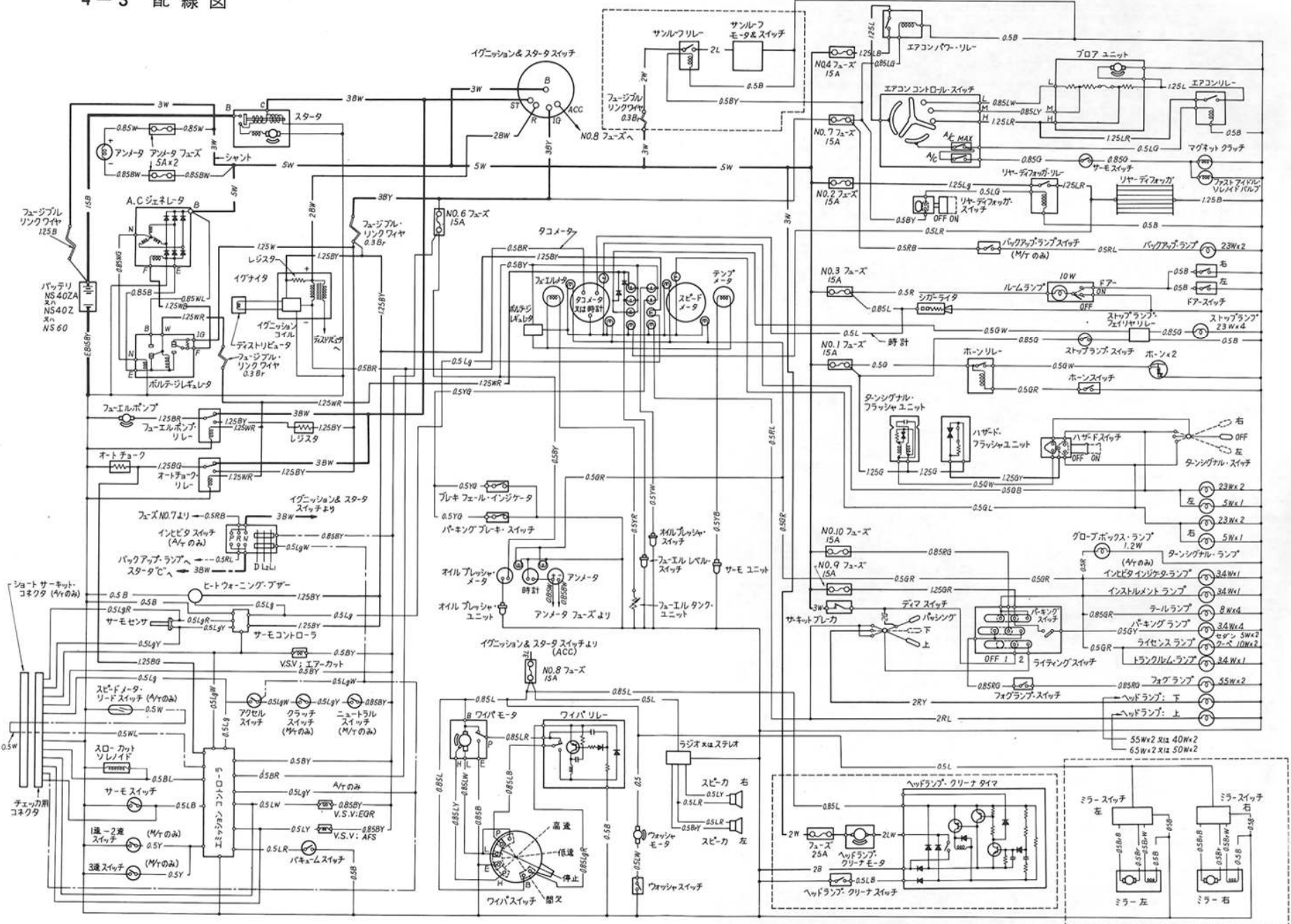


注)

	フューエルポンプ・リレー	オートチョークリレー
配	BR	BG
線	BY	BY
色	BW	BW
	WR	WR
	B	B

第4-41図

4-3 配線図



ケーブルの表示記号は下記による
 —0.5GR—
 トレースの色(赤)
 ケーブルの地色(緑)
 ケーブルの呼び(専体断面図的)

色別の表示記号は下記による
 記号 B W R G Lg Y L O
 色 黒 白 赤 緑 青 黄 青 紫

イグニッション & スタータスイッチ

端子名	B	ACC	IG	R	ST
キー位置	○	○	○	○	○
LOCK	○	○	○	○	○
ACC	○	○	○	○	○
ON	○	○	○	○	○
START	○	○	○	○	○

端子名	配線仕様	備考
B	3W	電源
ACC	3L	フェーズ (ACC)
IG	3BY	フェーズ (IG)
R	2BW	イグニッションコイル
ST	3BW	MT スタータ (C) インビクタスイッチ

ワイパ & ウォッシャー

端子名	B	I	P	L	H	E	W
右1段(前付)	○	○	○	○	○	○	○
OFF	○	○	○	○	○	○	○
左1段(低速)	○	○	○	○	○	○	○
左2段(原速)	○	○	○	○	○	○	○

端子名	配線仕様	備考
B	0.85L	電源
I	0.85LgR	ワイパリレー (I)
P	0.85LB	ワイパリレー (P)
L	0.85LW	低速
H	0.85LY	高速
E	0.85B	アース
W	0.5LW	ウォッシャー

タンシグナル & ハザードスイッチ

端子名	L	R	TFB	HFB
スイッチ位置	○	○	○	○
タンシグナル	○	○	○	○
ハザード	○	○	○	○

端子名	配線仕様	備考
L	0.5GB	左
R	0.5GL	右
TFB	0.5GW	タンシグナルフラッシュユニット
HFB	1.25GY	ハザードフラッシュユニット

ドア & パッシングスイッチ

端子名	U	L	B	P
ミラースイッチ	○	○	○	○
上(パッシング)	○	○	○	○
中(ロビム)	○	○	○	○
下(ハイビム)	○	○	○	○

端子名	配線仕様	備考
U	1.25R	ヘッドランプ 上
L	1.25RY	ヘッドランプ 下
B	2RW	ライティングスイッチ
P	2G	電着